

1 学校教育目標

- やさしい子（豊かな心で思いやりをもち、友達と協力し合える子ども）
- げんきな子（心身ともに健康で、明るく、実行力のある子ども）
- かながえる子（自分から進んで学び、よく考えて行動できる子ども）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもへの教育活動を通して、児童・保護者・地域に誇れる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく・のびのび・安心して過ごせる学校 ・基礎基本の確実な定着を目指して指導する学校 ・人間としての生き方・あり方を学び、思いやりのある学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○21世紀の変化の激しい時代を自らの考えにより、生き抜くことのできる児童 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的学習内容を習得し、さらに自らの良さを伸長させる児童 ・他者を思いやり、人間味豊かな生き方ができる児童 ・基本的生活習慣をしっかりと確立できる児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○教育公務員として、常に誇りと自覚を持つ教師 <ul style="list-style-type: none"> ・常に研究と修養に励み、児童の実態に即した教育を行う教師 ・地域・保護者の思いや願いを自覚し、家庭・地域と共に歩む姿勢をもち実行する教師 ・子どもから尊敬される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学力向上>

成果

区学力調査における通過率は、国語 79.0%、算数 77.7%、達成基準を国語 4 ポイント、算数 2.7 ポイント上回った。

課題

- ・区の学力調査やワークテスト等の情報を分析し、一人一人の児童がどんな学習内容につまずいているかを把握するとともに、放課後補充教室の指導効果を向上させること。また、そだち指導・夏季補充教室と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードのフル活用を図るとともに、若手研修を計画的に運営し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を完全実施する。小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年6回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

<学級づくりと個別支援の充実>

成果

外部機関や学習支援ボランティア等と連携・活用し学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導を充実し、児童の学校生活に改善が見られた。

課題

- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルをフル活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担当が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

<豊かな心と体力づくり>**成果**

体力調査の計画・実施・評価・改善が適切に実施されるとともに、その結果を以降の体育的活動の充実に活用した。また、外部講師の活用による授業の実施やPTAとの連携によるマラソン大会を実施した。

課題

- ・特別活動部が中心となって、4年生以上で登校時間帯、南門でのあいさつ運動に取り組む。また、管理職によるあいさつ、PTAによるあいさつ運動と連携を図りながら運動を充実していく。
- ・宿泊行事も含め校外学習や外部講師を活用した授業の実施を各学年で充実させる（全学年で合計30回以上の実施を基準とする）。また、体験を単元指導計画に明確に位置づけ、体験したことを子供の学びに十分に生かすように指導の手立てを工夫する。
- ・投力向上・長なわ・短なわ、外部講師を召喚する授業、外遊びの奨励については、より組織的・計画的に実施していくことが指導効果を向上させるうえで重要な課題である。3間（時間・空間・仲間）の設定による一年間を通した体力向上を心掛け、児童の体力とスポーツを楽しむ心の育成に取り組む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題	達成度 ◎○△●
国語科、算数科における基礎基本の定着	国語 80.0% 算数 80.0%	4月 国 72.8% 算 72.0%	10月 国 85.5% 算 84.1%	放課後補充教室やサマースクールの成果が表れている。しかし、学年によりばらつきがあり、4,5年生はより重点的な取組が必要。	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
別紙 「平成31年度学力向上アクションプラン」 評価シート参照									
重点的な取組事項－2		児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境を確立する。							
A 今年度の成果目標				達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度	
児童にとって安全に、安心な学校生活を確立する。				保護者アンケート「安心・安全に関する項目」：肯定的な回答90%以上	保護者アンケート 「安全・安心に関する項目」 肯定的な回答85.5%		<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する項目 肯定的回答88% 施設に関する項目 肯定的回83% いじめに関しては組織的対応している。未然防止・早期発見、早期解決に向けて一層力を入れていく。施設の老朽化が目立ち、危険個所は迅速に対応しているが、保護者から指摘を受けることが多くなっている。この点で肯定的評価が下がっている。引き続き点検を徹底し、安全最優先で対応する。	○	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 ・開発的教育相談手法を取り入れ、自己肯定感を醸成し、いじめ防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する項目 肯定的回答88% ・相談箱は随時校長が確認し、迅速に対応した。・QU調査を活用し支援を要する児童のケアを行った。 ・5年生全員を対象にスクールカウンセラーによるグループカウンセリングを実施し、互いを尊重する人間関係の在り方と自己肯定感の醸成を図り、いじめ防止の意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談コーディネーターの教員、スクールカウンセラーを中心にいじめの早期解決に組織的に取り組んだ。 ・いじめの解決に向け素早く対応し、学校全体が明るく穏やかな雰囲気になっている。 ・小さな変化やきっかけを逃さないよう、情報共有に努め、更に児童理解を深めていく。 	○
安全な学校施設の充実	学校施設の安全に関するアンケート:肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関する項目 肯定的回83% ・管理職の巡回と用務主事、警備員による報告は、事務と連携して危険箇所を最優先に修繕した。 ・各教員は毎月の点検表を提出し、緊急以外の修繕・改修等に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の修繕、ドアの修繕等、児童の安全を最優先に計画的に修繕を進めた。 ・施設の老朽化により不具合が次々と生じるため、安全第一に引き続き注視していく。 	△
あいさつの徹底	元気よくあいさつができる児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶(毎日) ・4年生以上によるあいさつ運動(蒲原中学との連携を含む) ・来校者へのあいさつを各学年で指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートではあいさつ運動等の取り組みについて肯定的な評価が88%に達した。 ・4年生以上の挨拶運動を継続。蒲原中学校とのあいさつ運動連携は、当初の目標を達成したことから終了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にあいさつができる児童が着実に増えてきている。 ・あいさつの効用を実感でききるような取り組みを一層充実させていく。 	○

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上	学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が95%に達した。	保護者と協力して課題を解決するとともに、学校の状況を広く地域に知らせることで理解が進んだ。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	・授業参観、保護者会の内容の改善充実	・授業参観後の保護者の感想では、肯定的なコメントが94%	個人面談を年2回実施。保護者との共育体制が進展した。 ・授業参観の参加率を高める情報発信を継続する。	◎
P T Aや開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	・各部活動への協力 ・各学年の活動との連携	・学校評価アンケートの「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が96%	・PTA 主催のこどもまつり（フェスタ）、マラソン大会、ボランティア活動の他、いじめ防止の講演とコンサートをPTAの協力で実施することができた。 ・開かれた学校づくり協議会では、地域学習での協力を得ている。	◎
体験的学習場面の設定	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年5回以上	・オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進 ・P T A・開かれた学校づくり協議会との連携による体験的学習場面の設定	・校外学習は3年生以上で実施した。 ・ゲストティーチャーによる授業等、体験的学習を各学年3～5回実施した。	・パラアスリートを招聘した体験授業が充実。次年度は、レガシーとして継続する内容や方法を検討する。 ・地域学習において開かれた学校づくり協議会委員の協力を得た。 ・体験的学習の指導計画を見直し、事前事後の学習の充実を図る。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

<学力向上>

成果

区学力調査における4月の通過率は、国語72.8%、算数72.0%であり、目標である80.0%(国算とも)を下回った。この結果を受け、放課後補充教室、サマースクールの更なる充実を図り、10月の定着度確認テストでの通過率は、国語85.5%、算数84.1%まで上昇した。

課題及び解決の方向性

- ・学力ポートフォリオやSP表を活用し、児童がどんな学習内容につまずいているかを早期に把握し、個々の課題に応じた指導方法や教材を工夫・改善していく。また、放課後補充教室、サマースクール、そだち指導と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードの確実な定着を図るとともに、学力向上担当を中心に計画的にOJTを実施し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。
- ・区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を実施する。
- ・小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年7回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

<児童がより安全に安心して学ぶことができる環境の確立>

成果

- ・外部機関との連携及び日常介助員や学習支援ボランティア等を活用し、学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導の充実を図り、児童の学校生活に改善が見られた。
- ・ゲストティーチャーを招き、講話や歌を通じていじめについて考える機会を設定し、児童の意識を高めることができた。
- ・スクールカウンセラーを講師として研修を実施した。また、日常的にスクールソーシャルワーカーを活用し、適切な外部機関との連携を速やかに図ることができた。

課題及び解決の方向性

- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルを活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担任が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、巡回心理士を活用した専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

<保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める>

成果

- ・PTA主催によるこどもまつり(東湊江フェスタ)やPTA・学校共催でマラソン大会を実施し、児童にとって充実した活動となった。
- ・開かれた学校づくり協議会委員をゲストティーチャーに招き、生きた地域学習に取り組むことができた。

課題及び解決の方向性

- ・特別活動部が中心となって、4年生以上で登校時間帯、南門でのあいさつ運動に取り組む。また、管理職によるあいさつ、PTAによるあいさつ運動と連携を図りながら運動を充実していく。
- ・保護者面談を年2回実施して保護者との意思疎通を図り、共育体制の充実を図る。
- ・地域行事等に教員が出向き、地域での子供の姿を知るとともに地域の方々との交流を深めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ◎基礎的基本的な学習内容の確実な定着に向けて、放課後補充教室、そだち指導員の活用、学習支援ボランティアの活用、夏季補充教室等に取り組んできました。令和2年度には、区の学力調査や単元ワークテストの結果を分析して児童の学習のつまづきをより明確にし、個に応じたきめ細かな指導に取り組みます。
- ◎安全・安心な学校を確立するために、いじめ防止マニュアルや不登校防止マニュアル等を活用するとともに、教育相談コーディネーター担当教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを十分に活用し、問題の未然予防・早期発見・早期解決に向けて組織的に取り組んでいます。今後も未然防止を第一としながら、様々なケースに適した指導や支援を行えるよう、研修の充実や外部機関との連携を進めていきます。また、施設・設備の不備は随時点検を行い、迅速に修繕し、安全な環境の維持に努めます。
- ◎充実したPTA活動は本校の宝です。次年度も教職員とPTAの協力体制を大切にしながら地域との温かい交流や人材活用も継続し、「地域に開かれた教育課程」の実現をすすめていきます。また、保護者が気軽に相談できるよう、教員のみならずスクールカウンセラーの活用や関係機関の紹介など、学校と保護者の信頼関係に基づく共育体制を大切にしていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

令和元年度は前年度に引き続き、「学力向上」「児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境の確立」「保護者や地域とともに子供を育む学校づくり」に取り組んだ。

「学力向上」について、4月の区調査では目標に対しての通過率が低く、放課後学習教室、そだち指導、学習支援ボランティアの活用をより充実させ、基礎基本の定着を図った。10月の確認テストでは目標を上回ることができたが、学年によるばらつきがあり、引き続き個に応じた指導の充実を進めている。また、昨年度に引き続き国語の校内研究に取り組み、教員の授業力向上を図ってきた。特に新学習指導要領の柱の一つである「対話的・会話的で深い学び」を教員自身が実践をとおして学んできた。令和2年度の新学習指導要領完全実施に活かしていく。

「児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境を確立する」ことについては、特にいじめに関する課題について校内の報告・連絡・相談体制が整ってきている。また、教育相談コーディネーター教員とスクールカウンセラーを軸とした未然防止策や心のケアも充実してきている。今後も迅速に対応し100%解決を前提に組織的に取り組んでいく。また、教員の研修も計画的に行い、それぞれの学年の特徴や課題を踏まえ、各学級・学年で児童と教師との間のより望ましい人間関係の構築を目指す。

「保護者や地域とともに子供を育む学校づくりを進める」ことについては、保護者や地域に向けて学校の教育活動の発信に努め、わかりやすく伝えるようにしたことで、学校への理解と協力をいただいている。また、PTA活動へ積極的に協力し、保護者との共育を推進するとともに、地域行事へ教員が出向き、交流を深めている。また、オリンピック・パラリンピック教育、校外学習、地域の人材を活用した体験活動の充実を図ってきた。今後も保護者、地域とともに豊かな心を育成に向けて体験的活動の機会を増やしていく。